

区分	審議会での意見	素案等への反映状況
「ビジョン編」全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北欧では「先人の想い」をいろいろなところで表現し残っていて、まちのエネルギーになっていた。ビジョンでも、もう少し明確に表してもいいのではないか。(池田委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1章第1節「策定の背景」、第2章第2節「札幌・北海道の魅力と資源」、第5章第1節「基本理念」に加え、第3章「私たちが目指す札幌市の将来」において、先人が知恵と努力で築き上げてきたこのまちを、次世代に良好な形で引き継ぐという主旨を記載した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 札幌市を支える市民のあり方として、子どもから高齢者までが、参加し決定するようなプロセスが含められた「責任ある市民の役割」を明確化させ、市民の自主性を引き出せるような施策の方向性についての配慮が必要ではないか。(杉岡委員)</li> <li>● 役割の部分で、行政が決めた取り組みに市民が参加する記載が多いと感じる。決定のプロセスに市民が参加して、実行に責任を持つという視点が必要ではないか。(杉岡委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第4章「まちづくりの基本目標」のリード文において、「市民、企業、行政などさまざまな主体が、『取り組み』の決定過程に参画し、相互に補完し合いながら責任を持って進める」旨を記載した。また、第1節から第7節までの「私たちが取り組むこと」の記載で、【市民】の取り組みを主体的・能動的な表現に修正した。</li> <li>● 第5章第2節の「市民が主役のまちづくり」において、「自分たちの地域のことは、自分たちで考え、自分たちの力で解決する」旨を盛り込んでいる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「人づくり」が重要であり、社会的渉外力の向上、ソーシャルコミュニケーションといったイメージが広がる表現が必要である。(高木委員)</li> <li>● 支え合い、助け合いが強調され過ぎると自立の阻害となる可能性がある。市民として生きていく力、生き抜く力を表すことも必要ではないか。(梶井委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第5章第2節の「まちの活力を高める人づくり」において、「社会で活躍する力を養う人づくり」を盛り込んでいる。また、進取性に加え、「コミュニケーション力や行動力」を持った札幌人を育てる旨を記載した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これまでの企業の社会的貢献としての取り組み（CSR）からさらに踏み込み、企業が責任を持って社会に投資する「社会的責任投資（SR I）」について、もう少し強い意志を持って記載すべきではないか。(小林副会長)</li> <li>● 官民の協働によって、もっとダイナミックに展開していくことが必要ではないか。(内田会長)</li> <li>● 官民が一体となって取り組んでいくことが重要である。行政には横断的なあり方が必要であり、民間の側もそれぞれの立場で取り組み、掛け合わさって官民一体になることが重要である。(池田委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3章のリード文において、「市民・企業・行政などが、それぞれの立場でまちづくりへの役割を果たしていくことが重要である」旨を記載した。</li> <li>● 第4章基本目標2「さまざまな担い手が地域のまちづくり活動に参加するまちにします」の取り組みにおいて、企業のCSR活動などを通じたまちづくりへの積極的な参加を盛り込んでいる。</li> <li>● 第5章第2節の「限りある資源の有効活用と共創」において、「行政と民間の役割分担と連携を十分考慮」する旨を盛り込んでいる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重要なのは、だれがこれを実行するかということで、市民からすると札幌市がやってくれると考えがちであるため、「市民が負担もする」という覚悟を持ってもらうことが必要ではないか。(近久委員)</li> <li>● 市民だって分担すべきは分担する協働の具体化が求められている。どうシステムが良くて、誰がそれを負担するか、現実をいかに共有して方策を考えるかが重要である。(五十嵐委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第5章第2節の「市民が主役のまちづくり」において、市民一人ひとりが「まちづくりや市政について関心を持ち、話し合い、積極的にかつ主体的に参画」する旨を盛り込んでいる。また、「限りある資源の有効活用と共創」において、「世代間の負担の公平性を考慮」する旨を盛り込んでいる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全体的に内向きな印象が強く、もっと世界に開かれるべきと感じる。札幌は市民だけのまちではないので、「札幌の未来をつなぐ子どもたちのために」は結構であるが、これに加えて外向きの何かが必要ではないか。(石森委員)</li> <li>● 札幌市の計画はきれいであるが躍動感がない。外との関係をどうしていくかを意識する必要がある。(内田委員)</li> <li>● 内向きの循環だけでなく、外向きの循環を創造していくことが必要である。(五十嵐委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3章「私たちが目指す札幌市の将来」において、「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」を設定し、「世界との結び付きを強め」、「世界が憧れ、活力と躍動感にあふれる、心ときめくまち」を記載した。さらには、「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」の中でも、「世界の都市の一員としての責任と役割を果たすことにより、世界と共生していくこと」など外向きの視点を記載した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第4章「基本目標を実現するための取り組み」の役割分担における「みんなで」の表現は、市民一人ひとりが担うというメッセージが薄れるため、「みんなが」または「市民が」との表現の方がよいのではないか。(梶井委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第4章のリード文において、「まちづくりの実践に当たっては、市民、企業、行政などさまざまな主体が、『取り組み』の決定過程に参画し、相互に補完し合いながら責任を持って進める」ことを想定して、「私たちが取り組むこと」と記載した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「規制緩和」の精神を盛り込むことも必要ではないか。(池田委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「戦略編」において検討する。</li> </ul>

区分	審議会での意見	素案等への反映状況
第3章「都市像」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「誰もが力を発揮できる社会」というフレーズを打ち出すべき。(梶井委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3章「私たちが目指す札幌市の将来」において、「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を設定し、「誰もがその能力を十分に発揮する」旨を記載した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「相互補完性」や「つながり」といったフレーズを打ち出せないか。(田村委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3章において、「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を設定し、「寛容さと信頼感のもとでつながる共生のまちづくり」の視点を記載した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「生活」の軸と「経済」の軸があり、しかも内向きだけではなく、外に向かって立体的に世界とつながるイメージが必要ではないか。(五十嵐委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3章において、外向きと内向きの双方の視点を踏まえた将来のまちの姿を設定した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パラダイムの転換に札幌市は率先して、いち早く対応するというキーワードが欲しい。また、市民の能動的な何かが欲しいと思う。(川崎委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3章において、「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」を設定し、「世界が憧れる環境首都」など、パラダイムの転換に率先して対応する視点を記載した。</li> <li>● 第4章第1節から第7節までの「私たちが取り組むこと」の記載で、【市民】の取り組みを主体的・能動的な表現に修正した。</li> <li>● 第5章第2節の「市民が主役のまちづくり」において、「自分たちの地域のことは、自分たちで考え、自分たちの力で解決する」旨を盛り込んでいる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「都市像」は市民以外が見る機会が多いため、海外を含めて外部から魅力ある都市に見えることが重要である。(小林副会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3章において、「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」を設定し、外に向けたアピールを意識して記載した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民が心の豊かさに価値観において、互いに助け合いながら豊かなまちをつくっていくことを示すのもよいと思う。(近久委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3章「都市像」において「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を設定し、つながりと支え合いの地域づくりについて記載した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市の匿名性を求めて都会に来る若者も多いため、「若者のエネルギーを爆発させる」方向性を選択する方法もある。若者のエネルギーを引き出すことが求められていると思う。(内田会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3章「都市像」において「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」を設定し、「若者をはじめとするさまざまな人々が先駆的な取り組みにチャレンジできる環境を整える」旨を記載した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● この10年でNPOに参画してくる若者は増えており、つながりやすい環境にある。ポテンシャルは確実に上昇しているため、施策的にどうバックアップするかということである。(高木委員)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 何かをやりたいと思った人が、やりたいことのできる環境を整えることが行政の役割ではないか。(五十嵐委員)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 札幌に行ったら何かを実現できるポテンシャルのあるまちがよいと思う。(高木委員)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 起業などを含めて、安心して冒険できる、失敗してもフォローできるまちというイメージを打ち出せないか。(梶井委員)</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 冒険にリスクは付き物なので「安心して冒険できる」というのは難しいのではないか。(内田会長)</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民の中で新しいことをすることを称賛するような風土になるとよいと思う。(星野委員)</li> </ul>		
第6章「重点戦略」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 6章「暮らし・コミュニティ」重点戦略の「地域マネジメント」の視点は重要であり、他の項目と並列ではなく全体を支える位置づけで記載すべきではないか。(五十嵐委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第6章「暮らし・コミュニティ」の重点戦略において、地域マネジメントを際立たせるよう記載内容を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 6章「暮らし・コミュニティ」重点戦略で、地域生活を支える「地域コミュニティ」だけでなく、「テーマ型コミュニティ」や国を越えた「グローバル化したコミュニティ」など、閉鎖的でないダイナミックな視点での整理が必要ではないか。(小林副会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第6章「暮らし・コミュニティ」の重点戦略および第7章「都市空間」において、記載内容を検討する。</li> </ul>